

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第28集 (長野県道 1 号線～508 号線)

残りの県道は? 51 <101～200>(8)109・121・122・143・156・157・158・186<201～300
>(13)210・223・224・233・234・236・237・243・247・250・251・252・273<301～
400>(12)324・325・335・351・366・368・370・375・377・378・384・392<401～508
>(18)401・402・406・414・418・419・421・430・435・437・441・452・455・456・
465・474・481・492

NO.190 飯田インターから時又・川路・天竜峡駅に

(長野県道 233 号走破) (長野県道 234 号走破) (長野県道 236 号走破) (長野県道 250 号走破)

NO.191 大町市街と爺が岳スキー場から鹿島槍スキー場

(長野県道 324 号走破) (長野県道 325 号走破) (長野県道 474 号走破)

NO.192 三遠南信自動車道の 2026 年 3 月開通部分を走りました

NO.193 念願の県道251号線(上飯田線)を走りぬいた

(長野県道 251 号走破)

NO.194 信濃の国は10州に境連ぬる国にして(新潟県編)

NO.195 旧常盤村(現飯山市)を通る県道 419 号線(関沢小沼線)を走る

(県道 419 号走破)

NO.196 松本市の酒蔵を一挙に訪ねて見ました

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

NO 道190

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.6.16

飯田インターから時又・川路・天竜峡駅に

澤田 繁 著

(長野県道 233 号走破) (長野県道 234 号走破) (長野県道 236 号走破) (長野県道 250 号走破)

2026.6.16、塩尻北インターから高速に乗り、飯田インターで降りて、国道 153 号線(名古屋市東区～塩尻市)を昭和 31 年まで伊賀良村(北方・大瀬木・中村・上殿岡・下殿岡・三日市場)の所を阿智村方面にしばらく行くと、中村交差点(標高 600m)がありそこを左折し県道 233 号線(時又中村線)に入った。ここから天竜川(標高約 380m)までは緩やかな下りの道であり、耕作地と人家がつづき、天竜川の河岸段丘の下には、茂都計川の谷間をぬって下った。県道 233 号線は、河岸段丘の上までは、旧伊賀良村の中村地区を走り、河



岸段丘と河岸段丘下は、旧竜丘村(駄科・桐林・時又・長野原・上川路)の上川路地区から新地域の嶋地区を走り、時又地区に入り、天竜川に架かる赤い橋(天龍橋)の付近で県道 237 号線と交わる所まで進んだ(県道 233 号線走破)。途中に時又港に寄り、終点の時又商店街?を撮り、Uターンをして次の県道 250 号線に向かった。

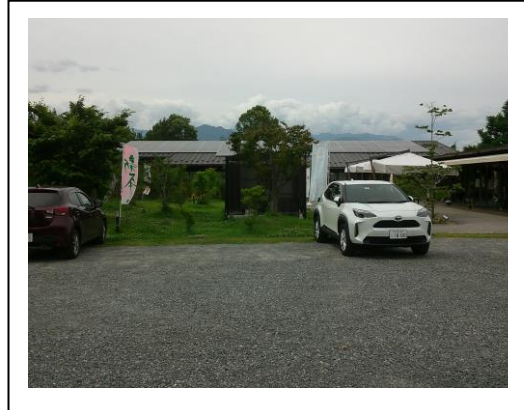
県道 250 号線は、国道 151 号線のバイパスとして天竜峡から時又地区まで完成している道路で、片側 2 車線の用地を要しているが開通は片側 1 車線となっている。県道 250 号線(上川



路大畑線)に入り、天竜峡方面に向かい南下し、茂都計川を渡ると。旧川路村に入った。県道から少し離れた川路駅(写真右)に寄り、食べる場所を探して、ココムファームビレッジ(写真下)に行き、その中のイタリアンレストランに入りスパ



ゲッティを食べ休憩した。休憩後、県道 250 号線を終点の大明神原交差点まで行き(県道 250 号線走破)、右折し国道 251 号線に入り、500m 程行った天龍峡交差点を右折し、県道 236 号線(天竜峡停車場線)に入った。すぐ天竜峡の街になり 500m 程で終点の天竜峡駅(写真下)に到着した(県道 236 号線走破)。



天竜峡駅から踏切を渡り、左折し県道 250 号線に戻った。川路駅に入る交差点より手前の交差点が県道 234 号線(田中乱橋線)の起点となり、その交差点を見つけて左折した。国道 151 号線をつき切り、段丘を登って行くと道は 1.5 車線と狭くなり、高速道路下をくぐり、しばらく行くと、峠の表示(高松峠)があり、ここから下って行く、峠を境に旧川路村から旧三穂村(伊豆木・下瀬・立石)の伊豆木地区に入った。



少し開けた所に出て、県道

491 号線と交わり、暫く重複して、県道 491 号線と分岐すると、徐々に山間の集落がある所(写真左)に入り、登って行くと山麓を走る道になり、集落と集落の間が離れるようになり、旧山本村(箱川・久米・竹佐・山本)に入ると、山麓から下りの道になりやや広い谷間に着いた。ここに昔来た事がある「伊那谷道中」(1997 年～2018 年)を見に行ったら。駐車場と入口の建物



(写真下)が残っていたが、入口より先は見ることが出来なかった。箱川地区から緩やかに下って行くと、阿智村に入り、阿智高校の周りを下ると阿智市街地に入り、国道 153 号線と春日交差点で交わった(県道 234 号線走破)。



国道 153 号線から少し外れて、三州街道を通って山本インター付近まで進み、後は国道 153 号線を、昼

頃曲がった中村交差点を通り、1 周した。飯田インター付近まで行き、飯田のきんつばを買いに、店屋の場所を結構記憶があいまいであちこち探して、ようやく手に入れ、飯田インターから帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.6.23

大町市街と爺が岳スキー場から鹿島槍スキー場

澤田 繁 著

(長野県道 324 号走破) (長野県道 325 号線走破) (長野県道 474 号走破)

2026.6.23、豊科のとりでん本店でラーメンを食べ、高瀬川沿いのオリンピック道路を使い、大町駅に着いた。駅の駐車場に車を止めて、駅周囲を散策し、県道 474 号線（信濃大町停車場線）を始点の信濃大町駅から大町市街地を走り、国道 147 号線と県道 31 号線の交点である大黒交差点に着いた（県道 474 号線走破）。

県道31号線から国道148号線に入り北上し、右折し木崎湖駅前に着いた。

信濃木崎駅から、60m程で国道148号線に出て左



折し 80m 程で右折して県道 325 号線（大町白馬線）に入り、耕作地と人家のある道を進む、鹿島川を渡り、平地区源汲の集落を越して山に入り、スキーに良く来た（八方方面は国道 148 号線の渋滞が良くあったので）爺が岳スキー場を突っ切り鹿島川沿いの道を北上し、鹿島槍スキー場に向かう三叉路に着いた。途中

鹿島槍ガーデンがあり、釣り人が池で魚を釣っていた。昔来た時は、にじますを釣ってその場で焼いて食べた記憶がある。今日は、この三叉路を右折し鹿島槍スキー場方面に向かったが、**2021.6.8** には、直進して県道 235 号線を車の



行ける大谷原まで進み、ゲートの前で写真を撮って引き返した。県道 325 号線の終点は、白馬岳となっているので、登山道を調べると大谷原から冷池小屋まで登り、後は尾根つたいに白馬岳までのルートと思われる（県道 325 号線走破）。



大谷原のゲート前 2021.6.8



鹿島槍スキー場は、山の上にあり、昔来た時は、国道 148 号線から中綱湖のそばにある駐車場に車を止め、長い急な登りリフトを使い、山の上のグレンデに来ていた。裏から車でスキー場に来た感じで、スキー場で車を止め少し休んで、急な下りの道を降り、中綱湖横の築場駅に着いた。

築場駅から県道 324 号線（青貝築場停車場線）を走りました。起点の築場駅（標高 830m）を過ぎると、暫く中綱湖畔を通り、中綱湖から青木湖（約 200m）の間を途中まで走り、右折した所が県道 324 号線であった（実際は、迷ってなかなか 324 号線を継続する事が出来なかった）、国道 148 号線の下をくぐり直進すると山道に入り、道も狭くなり、築場スキー場の横を登って行く、スキー場を横切り進むと、山の頂上に来た感じがした。これより先は下りの道が



つついたのので、後から調べると標高 940m がありこの県道の最高地点であった。下って行く道も狭く、雪の影響で道路側に曲がった木が多く見られた。更に下ると、丸切沢の谷間に沿う道になり、沢全体が砂防工事のメッカのようだ、下の方に説明看板があり詳しく説明されていた。終点近くなって、田んぼが谷間に現れ、上流の谷の安定の象徴のようだった。県道 33 号線と交わり（県道 324 号線走破）、100m 程長野方面に行くと青貝交差点に着いた。この日は、長野にいき孫と須坂イオンモールに行き、孫を千曲市の家に送って行き帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.6.27

三遠南信自動車道の2026年3月開通部分を走りました

澤田 繁 著

2026.6.27、浜松にホテルを予約して、三遠南信自動車道の開通部分を走る事にしていたが、二つの台風が上陸する日となっていました。二三日より天気予報を見ながら予定をいろいろ変更して、当日の3時頃名古屋を出れば台風の雨には会わないと確信して、9時半に自宅を出ました。



中央道を名古屋方面に、恵那峡サービスエリアで休憩し、小牧ジャンクションで東名自動車道に入り、名古屋インターを過ぎ、日進ジャンクションから長久手方面に向かい、長久手インターで高速を降り、長久手IC交差点を左折し、猿投グリーンロードを250m程走り最初の信号のトヨタ博物館前交差点を右折し、トヨタ博物館に13時ちょっと前に着いた。あと2時間はここぞと思い中に入った。『トヨタ博物館は、世界の自動車とクルマ文化の歴史を紹介する博物館です。トヨタ自動車創立50周年記念事業のひとつとして

1989年4月に設立いたしました。「クルマ館」では19世紀末のガソリン自動車誕生から現代までの自動車の歴史を日米欧の代表的な車両約150台で一望いただけます。移動の自由を象徴する「乗用車」を軸に体系的に展示構成し、ほとんど全ての車両は走行可能な「動態保存」としています』、2階・3階が主な展示スペースで時代順に順路があり、最初の一気筒エンジンから始まり、私が車に最初に乗った(約60年前)時代の物もあり、デトロイドで約40年前に見に連れて行ってもらった事も思いだしながら、広いスペースを見学した。まだまだ進化し、完全自動の自動車の世界を見たいと思った。少し中にあるカフェで休憩しているうちに3

時近
くな

ったのでトヨタ博物館を後にした。

東名高速道を静岡まで進み、浜名湖が見えたので舘山寺スマートインターで降り、舘山寺方面(庄内地区)に向かい、浜名湖をまじかで見たいと思いながら走ったが、なかなか近くに行けず半島の先でようやく車(村櫛レスト駐車場)を止めて浜名湖をバックに写真を撮る事が出来た。5時近くなったので、ここからホテルまでの間にあるあらかじめ調べてあったうなぎやに向かいました。5時少し過ぎに到着したら、既に数台の車が止め



であったので、入れるか不安でしたが、気持ちよく入ることが出来ました。「かねりん鰻店・特上うなぎ」を食べ満足してホテルに向かいました。ホテルは一度前に泊まった「コンコルド浜松」で、浜松城の横にある。前回は浜松城を見学してあったので、時間も良く、そのままホテルで宿泊しました。

今回の宿泊で、朝食バイキングが魅力との情報にから期待して朝起きました。バイキング会場に行き、鰻の混ぜご飯やシェフがその場で作るオムレツなど少し多めに食べ満足して、ホテルを後にしました。ホテルから西に進み途中から南下し、昨日台風のため休業していた「よらっせ YOTO」により、海老と魚を買い、雄踏橋を渡り、湖と最も近い車の道を通り、湖を近くに見ながら湖の西に行けた。西側から北上したが湖は、見えず、三ケ日インターに入る 15km 手前から見えだした。今回の目的である三遠南信自動車道に入る手前の東名と新東名を結ぶ引佐連絡道路に入るには、三ケ日インターから名古屋方面に 5km 程行った三ケ日 JCT に入る事から開始。引佐連絡道路を走り、新東名の浜松いなさ JCT を通過し三遠南信自動車道に入った。

最初のインターである浜松いなさ IC を過ぎ別所トンネル・渋川トンネルを抜け、2 番目の渋川寺野 IC を

通過し、三遠トンネル（2003 年工事開始・2012 年開通 4.5km）に入る。トンネル内で愛知県に入る。短いトンネルを 2 つ抜けると 3 番目の蓬莱峡 IC があり、4 番目の東栄 IC との間が 2026 年 3 月に開通した部分である。この間トンネル区間（4 つ）がほとんどであり、谷間を走る国道 151 号線（飯田～豊橋）を 2 度渡る



橋が工事経過（かわら版がある）を見るに楽しかった。蓬莱峡 IC を通過してしまったので、東栄 IC で降りて橋（写真）を見に行った。東栄 IC に戻り、平成 31 年(2019 年)3 月に開通した区間を走り、佐久間川合 IC で降りた。この区間、ほとんどがトンネル区間で二つのトンネルの間に浦川 IC があった。トンネルに入り 800m 程で再び静岡県に入る。佐久間川合 IC から水窪^{みさくぼ}IC まで（水窪佐久間道路 14km）は、平成 31 年に事業化された。浜松河川国道事務所のホームページから工事進捗状況がわかるかわら版も出ていない（多分工事はこれから）が、走行イメージ（動画）が掲載されている。これを見ると、この間ほとんどトンネル（9 トンネル）

で、途中一か所トンネルとトンネルの間が長い区間がある。水窪 IC（工事中）まで、国道 473 号（蒲郡～静岡県相良町）と国道 152 号（浜松～上田）を使い移動する予定だったが、国道 473 号と静岡県道 290 号の交点において、国道 152 号が土砂崩れにより長野県方面には行けないので県道 290 号で迂回してくださいと言われた。多分昨日の台風のためであろう。この県道は、山麓をぬうように走っており、カーブが多く 1 車線の幅がほとんどで、すれ違い場所を見ながらの運転でした。山麓にはところどころ人家があり暮らしている。北条峠を過ぎると、奥領家地区の佐久間町



分（水窪町分もある）に入り、国道 152 号線に出（右側

に災害復旧箇所が見えた）、左折し国道 152 号線を走り、水窪市街地を過ぎ、1km 程行くと、今まではセンターラインにある 2 車線道路が、突如片側 1 車線になる。400m 程狭い道が続き、広い道になった、この辺りが水窪 IC になる。

水窪 IC から水窪北 IC までの 7.3km は、国道 152 号線と共



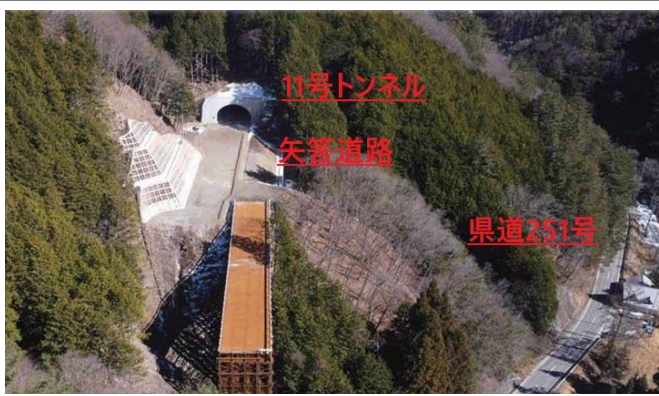
用区間になる。翁川に沿って登って行く国道は、まだすれ違いの出来ない箇所もあり、改良工事があちこちで行われていた。水窪北 IC（場所はわからなかった）近くで青崩トンネルの入口が見える所で車を止めた。この青崩トンネル区間、2019 年に着工し 2023 年に貫通、現在本体工事は終わっている。取り付け道路の関係もあり、まだ一般車両はトンネルを通れないので、草木トンネルを通り、浜松市道を登り、兵越峠から長野県道 369 号線（第 17 集一 NO. 118）を下り国道 152 号線との交点に出た。交点から 250m 程のところで車を止めてトンネルを撮った。



トンネル付近が小嵐 IC として、矢筈トンネル入口付近までは、国道 152 号線と共用区間であり、現在小嵐バイパス（2.4km）を残して工事がすすめられている。一見して半分は既に完成して共用されているように感じた。国道 152 号線の和田バイパスを通り、遠山郷の道の駅を通り、秋葉街道のかみまち宿から県道 251 号線に入り、赤石峠を越え、矢筈トンネルの入口（喬木 IC）に着く。喬木 IC から飯田上久堅喬木富田 IC までが最後の工事区間（飯橋道路第 3 区）である。県道 251 号線を下って行くと、8 号橋の工事現場に着く。県道 251 号線沿いには、3 つの工事用道路（二日銅・小豆沢・牛首沢）の入口が



あったが、工事現場は見えなかった。家に帰り、平成10年（1998年）から始ま



った工事進捗状況を調べて見ました。橋は 9 つあり、9 号橋が最後に工事開始状態。1 号橋は完

成・3号・4号・6号は橋上部がかかっている。トンネルは11個あり、2号・6号・11号トンネルが貫通し、1号トンネルが工事着工する。道路としては、富田道路・富田北道路・矢筈道路が進んでいる。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.6.28
念願の県道251号線(上飯田線)を走りぬいた
(県道251号線走破)

澤田 繁 著

2026.6.28、国道152号線から少し入ると、秋葉街道かみまち宿がある。ここが県道251号線(上飯田線)の起点となる。かみまち宿を出ると工事予告があり、全面通行止め7月1日より11月30日となっていた。この路線のかみまち宿より矢筈トンネル入口までの区間は、冬季間閉鎖(12月初旬～4月初旬)の対象区間であるとともに、路肩の崩れ等の工事区間が長く、いつも通れなかった。台風の後でもあったが、このチャンスを逃すと一生無理な気がして、前進しました。

武田信玄が三方ヶ原の戦いにおいて、兵を分けて進んだ一つのルートがこの国道152号線の諏訪からの道であり、秋葉街道と言われて



いた。もっと古い時代は、塩の道、和田峠の黒曜石の運搬ルートの一つとして存在していた。

かみまち宿は、秋葉街道

の枝道の分岐点で、枝道は、小川路峠を越え上久堅の国道256号線に通じる。県道251号線は、すぐに秋葉街道枝道から外れ、山道を登って行く。道は1.5車線と狭いが石垣もあり、かつての上村(現飯田市)から喬木村に向かう重要道路の跡が見える。1994年に矢筈トンネルが開通し今はあまり使われなくな



った。かみまち宿の標高は580m、伊那盆地に行くには標高差1000m近くの伊那山地を越えなくてはならない。結構赤石トンネル(赤石隧道)までは、台風の影響



で枝や小石が散乱している箇所が多く長く感じたが、ようやく赤石トンネル入口にたどり着いた。赤石隧道（赤石トンネル）は、昭和 43 年に開通した。短いトンネルと思っていたが、走ると約 1.1km あった。トンネルを出ると下りになり、くねくねした道を走ると、喬木インターから矢筈トンネルに向かう橋の下を通り喬木インターの入口に着いた。ここから^{うじのり}氏乗三差路までは、何度も通った道になる。この間は 2 車線の道路であり、小川川の谷間を走る道路で、今回は途中「直売所田舎道」で、ブルーベリーを買った。

氏乗三差路から喬木村市街までは、度々県道 251 号線は通行止めになっていた、いつも迂回路を走っていた。今日はなんだか通れそうなので小川川沿いに走った、狭いカーブの多い道（2 度目の走行なので、少し楽でした）を下りました。対向車に合わずに開けた所（以後は 2 車線道路）に出る事が出来ました。

喬木村市街に入り、県道 18 号線と交差し 150m 先を右折し、よく立ち寄る「A コープファーマーズたかぎ」の横を通り、阿島自動車学校前の信号を左折し、天竜川に架かる阿島橋を渡った。県道 251 号線の阿島橋から赤石隧道までが喬木村を通り、橋を境に、旧坐光寺村（現飯田市）に入った。



阿島橋から新幹線の天竜川に架かる橋脚が見え、喬木村側の一部に橋がかかっていた。リニア中央新幹線は、この 251 号線の上を橋脚で通過するはずと思い付近をゆっくり走ったが、工事の気配はなかった。国道 153 号線との交点である坐光寺交差点を直進し、150m 程先の坐光寺宮の前交差点を右折し少し行くと、飯田線の踏切に来た。踏切を渡り、250m 程で元善光寺駅に入る道に到着し、駅前まで車を進め停車し写真を撮った（県道 251 号線走破）。元善光寺駅からは、200m 程北に行くと、坐光寺スマートインターに行く、緩やかな登りに道を使い、高速にのり帰宅した。



【付録】リニア中央新幹線の開業は？

当初予定されていた「2027 年」という数字は、すでに過去のものとなりました。現在、プロジェクトは「2034 年以降」という新たな時間軸の中で、着実な一歩を踏み出しています。

2026 年、静岡工区がようやく動き出した。

もし 2026 年内に本格的な準備が始まれば、そこから約 10 年を要するため、**最速でも 2036 年頃**という計算が成り立ちます。JR 東海が公式に使用している「2034 年以降」という表現は、この「工期 10 年」を前提とした、最も現実的な予測値なのです。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.7.14

信濃の国は10州に境連ぬる国にして(新潟県編)

澤田 繁 著

埼玉・富山・山梨・愛知・岐阜・静岡・群馬につづき新潟県編は最終 8 作目になる。新潟県は、長野県にとっての海(特に日本海へ水が流れる流域地域)として、特に夏は往来が多い。上越道が出来る前は、松本地域は、鉄道なら糸魚川線、道路は国道 147・148 号線を使い、日本海に行っていた。国道 148 号線は、姫川沿いの道路で、県境は、崖を通る難所だったが改良が今も行っている。長野地域は、信越線及び国道 18 号線を使い直江津まで行き、新潟方面と富山方面に分かれて海水浴等に行き。飯山地域からは、関田山脈を越え旧新井市に抜け、直江津までが多く、飯山線か国道 117 号線を使い長岡方面に行ってから日本海に行っていた。《糸魚川方面》《直江津方面》《長岡方面》に地図を分けて、新潟県境の県道・国道を列記した。

①【国道 148 号線(大町市～糸魚川市)】国道 147 号線(松本市～大町市)とセットで、糸魚川市横町交差点の海岸端で国道 8 号線と交わる。

②【長野県道 114 号線/新潟県道 225 号線(川尻小谷糸魚川線)】第 1 集の「NO.7」に記載。中土駅から雨飾山の南斜面を通り、しばらく道がなく、県境近くで長野県道 114 号が復活し、県境を通過すると新潟県道 225 号線に番号変更し根知谷入口交差点で国道 148 号線と交わる(終点)。

③【長野県道 119 号/新潟県道 280 号線(杉野沢黒姫停車場線)】第 18 集の「NO.124」に記載。黒姫駅から一旦国道 18 号線に出て、信濃町インター手前から黒姫スキー場方面に向かう。スキー場入口を越え、関川の県境を越えると番号が変わり新潟県道 280 号線になり、しばらく行くと新潟県道 39 号線と交わる。

④【上信越自動車道(藤岡 JCT～上越 JCT)】1999 年開通・2019 年 4 車線化。県境は、関川に架かる「れいめい橋」(全長約 500m)にある。

⑤【国道 18 号線(高崎市～上越市)】高崎市の国道 17 号線との交点から始まり、第 25 集の「NO.169」では、群馬県と長野県の県境を記載。上田市・・・信濃町から県境の「信越大橋」を渡り妙高市に入り、旧直江津市(現上越市)の下源入交差点で国道 8 号線と交わる。

⑥【長野県道/新潟県道 96 号線(飯山妙高高原線)】第 26 集の「NO.181」に記載。飯山新幹線駅の飯山駅南交差点から豊田飯山インターの横を通り、野尻湖東岸をまわりながら古海地域を通り、熊坂地域から県境を経て、新潟県妙高市に入り、踏切を渡り妙高高原駅の前を通り、豊橋交差点で国道 18 号線と交わる。

⑦【長野県道/新潟県道 97 号線(飯山斑尾新井線)】第 27 集の「NO.187」に記載。国道 292 号線との交点である飯山市中央橋西交差点から飯山市街を通り、斑尾高原を走り、ホテル等が多くある中心地が県境となり、新潟県では、野尻湖方面に少し下り、途中から北上して、谷間を下って、旧原通村の新田集落が多い、田んぼの多い地域に出て、その地域を横断して、旧鳥坂村(旧新井市⇒妙高市)の除戸地域に入り、除戸交差点で国道 292 号線と交わる。

⑧【国道 292 号線(群馬県長野原町～新潟県妙高市)】群馬県長野原町から草津温泉を通り、白根山横をとおり、第 25 集の「NO.169」では群馬県と長野県境を記載。志賀高原から中野市・飯山市、飯山市から古くは





塩の道でもある富倉街道を関田山脈越えて新潟県に入る。妙高市寺町交差点で国道 18 号線と交わる。

⑨【長野県道 411 号/新潟県道 412 号線（飯山新井線）】第 27 集の「NO.187」に記載。県道 95 号線の下水沢交差点から関田山脈を越え、新潟県の旧平丸村を主に通り、旧上郷村猿橋地区で国道 292 号線と交わる。

⑩【長野県道/新潟県道 95 号線（上越飯山線）】第 23 集の「NO.156」に掲載。国道 117 号線が国道 292 号線と分岐しすぐの黄金石入口交差点（始点）から、鍋倉高原を通り、関田峠で県境を越え、新潟県板倉区関田地区に入り、主に上越市板倉区を走り国道 18 号線の上越市島田交差点で交わる。

⑪【国道 403 号線（松本市～新潟市）】市川橋から国道 117 号線と分岐し川沿いを少し走り、狭い山道に入る。途中

棚田があり、また山道に入り県境の伏野峠を越え新潟県上越市安塚区内を走り、十日町市に、その後中越地方を通り新潟市に達する。

⑫【国道 117 号（長野市～小千谷市）】長野県側は千曲川、新潟県側は信濃川に沿った国道。県境は宮野原橋手前にあり、長野県栄村から新潟県津南町に。

⑬【長野県道 507 号線/新潟県道 239 号線（秋山郷森宮野原停車場線）】第 25 集の「NO.170」に記載。森宮野原駅より国道 117 号線に出て新潟県に入り、逆巻交差点を右折と分岐し、県境の志久見川を渡り長野県にはいり、しばらく川沿いを走り、山を越え秋山郷に入る。国道 405 号線と屋敷で交わる。

⑭【長野県道 407 号線（長瀬橋倉停車場線）】・【新潟県道 238 号線】第 25 集の「NO.170」に掲載。橋倉駅から川を渡り段丘を登り山間の集落を通り長瀬地区に入り、県境志久見川まで、対岸からは新潟県道 238 号があり逆巻交差点まで行く。

⑮【国道 405 号線（群馬県六合村～上越市）】第 25 集の「NO.170」に掲載。津南までは、中津川に沿って走り、県内は、秋山郷を走る。津南町に入って県境近くは、秋山郷は続いており、しばらく走ると耕作地があり、そのまま国道 117 号線に出る。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.7.21

旧常盤村(現飯山市)を通る県道419号線(関沢小沼線)を走る

澤田繁 著

(県道 419 号走破)

2022.6.14. 豊田飯山インターから栄村や旧岡山村（現飯山市照岡・一山地区）を散策した帰りに、国道117号線を南下し、県道410号線に入り、県道38号線の小菅北竜湖入口交差点から飯山市瑞穂地区に入り、県道38号線を南下し、関沢交差点を右折し、県道419号線（関沢^{おぬま}小沼線）が始まり200m程で千曲川に架かる大関橋を渡ると、旧常盤村（昭和29年に飯山市になる）に入った。国道117号線と交わり、直進する。道沿いには、旧常盤村の集落がところどころあり、終点の県道95号線



との交点まで続いていた。旧常盤村（常盤・小沼・大池）は、ほとんどが常盤地区で、南の方に、小沼地区と大池地区がある（県道 419 号線走破）。途中に常盤戸隠交差点があり、右折すると「信濃平駅に行き、左折すると、国道 117 号線の「道の駅・花の駅千曲川」に行ける。

道の駅千曲川は、2022 年 10 月にリニューアルされた。リニューアルされる前もよく立ち寄った所であり、リニューアル後も 2 回程立ち寄っている。モダンになって、慣れないせいか少し窮屈な感じがした。規模はこの辺では、一番の様に思えるが、いまだにここに来たら、〇〇を買おうというものがない。

この日は、県道 95 号線から国道 117 号線に出て、有尾交差点で、国道 292 号線と一緒に、豊田飯山インターの手前 4 km²で、国道 117 号線とは分かれ、単独で国道 292 号線を使い、中野インターから帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.7.28

松本市の酒蔵を一挙に訪ねて見ました

澤田 繁 著

2026.7.7、自宅を出て、コインランドリーで乾燥を行い、松本市街に向かいました。松本市街で、実家に寄り、その足で、檀家である妙勝寺に行きました。妙勝寺は、寺が子供の頃裏町にあり、墓が旧念来寺の鐘楼がある場所にあり、実家からよく墓参りに歩いて往復した。今は、寺院がここに移り、イオンモールが横に立つ、鐘がなかった鐘楼も妙勝寺の檀家により、

富山県高岡市で鋳造され復活された(現在;県重要文化財)。この近くにあるのが、創業が江戸時代末期の善哉酒造であり、妙勝寺に車を止め歩いて女鳥羽川を渡り訪れた。女鳥羽の泉(写真中央)は、自由に水が汲める場所です。前は湧き水でしたが、今は30m下から汲み上げている。右に店舗があり入ると、しばらくして、おかみさんが試飲を進めてくれて、年も少し上だったので話がはずみ。ながいをしてしまいました。



買ったのが「善哉」(一升瓶)とちょっと高い2026年7月1日販売開始した新銘柄「水澄吟(みとうた)」の山恵錦純米大吟醸でした。水も2L容器に入れて持たせてくれました。この日はそのまま帰宅。

2026.7.14、自宅を出て、自宅から一番近い酒蔵に向かった。国道158号線からだ、島立町区信号を曲がれば行けるのだが、自宅から国道158号線を使わずに簡単に行けると思ったが、行き過ぎて戻る形で「亀田屋酒造」に着いた。主な銘柄は、アルプス正宗と亀乃世で、酒米(山恵錦・美山錦・ひとこ



こち・山田錦)や酒造り方法等で、いろいろなアルプス正宗や亀乃世があり、国道 158 号線上の看板にある、計り売りの情報等を聞いて、どれを買うか迷ったが、生酒のアルプス正宗等を買って国道 158 号線に出て、松本インターから高速に乗り、信濃町インターで降り、友達の家に寄り、友達用に買ったアルコール度が高い酒を届け、千曲市に戻り孫とイオンモール須坂に遊びに行き帰宅した。

2026.7.21、自宅を出て、用事を済ませ、寿団地と松原団地との間にある「アルプ」で昼食を済ませ、山麓線(県道 63 号)で中山地区を通り、千鹿頭池まで行きました。千鹿頭神社の西入口の横の狭い道を進み、東入口の前に着き、ここから岩波酒造の全景を撮って、酒造の入口を探して進んだ。入口がよくわからず裏手にいってしまい、従業員に聞いて入口前の駐車場に車を止め、売店の表示を見つけ入りました。岩波酒造は、1872 年(明治 5 年)創業の老舗で私の若い頃(1970 年頃)は、甘口が真澄で辛口が岩波と言



ったなじみの銘柄であった。岩波の銘柄の他、鏡化水月があった。生酒と酒粕を買って、店主と酒以外の話をして、次の酒蔵に向かった。

松本市街に入り、県道 295 号線を通り新町交差点に出て、大町に向かう旧国道 147 号線に入り、奈良井川を渡り 100m 程行くと右側に「笹井酒造」があり、正面に車を止め売店に入った。笹井酒造は、1926 年(昭和元年)創業の松本で一番新しい酒蔵であり、銘柄・笹の誉の他松本城があり、原料となる酒米は松本市で栽培された契約栽培米のみを使用してる。笹井酒造を

知ったのは、縄手にスーパーマーケット(笹井)を開設していた時期があり、駐車場の混む町中のスーパーであった。「笹の誉 風穴貯蔵」(酒米はひとごち)を買って、自宅に帰りました。風穴貯蔵とは、松



本市稲核にある「風穴(ふうけつ)」に厳冬に仕込んだお酒を春にそのままを貯蔵し、秋まで熟成させています。自然に抱かれ、ゆっくり時間が経過し、まろやかな優しい味に仕上がっていますとのこと。

2026.7.28、昨日、母が熱を出して入院したと聞いたので、面会時間(2 時~4 時)に合わせて、松本駅西口近くの病院に様子を見に行った。熱も下がり元気だったのでほっとしました。面会のあと、国道 158 号線に戻り、大信州酒造に向かいました。中央に分離帯がある道路で、右折が出来ないので町区東交差点を右折し裏から回る事にした。裏から入る道を探しながらたんぼ道を走っていたら、偶然にも、大信州酒造の、の



ぼり旗が田んぼに立っているのを見つけて、酒米のたんぼを見る事が出来た。のぼりが立っていなければ、普通の米と見分けがつかない。「ひとごち」の表示も見えた。裏側を回って「大信州酒造」の駐車場に車を止める事が出来た。

大信州酒造は、明治 13 年創業の老舗。令和になって国道横にきれいな建物が出来た。ショップもきれいな建物になっており、早速中に入った。「大信州手の内生詰」（酒米は金紋錦）を買い外に出たが、妻は店内を見てから出て来た。どうも 10 万を超える酒とか、万を超える酒を見て来たらしい。帰って調べると、＜超高級酒＞＜高級酒＞＜GI MAGANO＞＜普通酒＞＜季節酒＞となっていて、＜超高級酒＞のところ、カタログにあるのは、香月（こうづき）シリーズ（ゆう和・至極・秘伝・古今・^{かむじゅ}神寿）で、価格はよくわからなかった。



時間があつたので、松本市の隣の塩尻市洗馬にある「美寿々酒造」に行く事にしました。長野道に沿って南下し、県道 296 号線に出て松本空港に向かい、県道 115 号線を更に南下し市道を通り県道 293 号線に出る。県道 293 号線を南下して、洗馬小学校横の信号を右折し、県道 293 号線に入り、小学校前を通り、肉屋さんを探し、肉屋の先の狭い道を左折し、なんとか「美寿々酒造」に着いた。前の駐車場に車を止め、中に入った。「美寿々酒造(みすずしゅぞう)」はその宿場町のひとつ、中山道と北国西街道の分岐点“「洗馬宿(せばじゅく)」から、山間に入った小さな集落にある酒蔵。創業は明治 26 年(1893 年)。代表銘柄の「美寿々」の由来は、万葉集に詠われた「信濃」の枕詞、当地の自然の美しさをたたえる「みすずかる」にちなんだもの。何を買うか迷ったが、夏酒・「美涼」（酒米は美山錦）を買いました。少し店主と話をし、県道 293 号線に戻り帰宅した。早速「美涼」（720ml）を半分程飲んだがちょっときつかった。アルコール度数は 17 度でした。